

報告番号

※

第

号

主 論 文 の 要 旨

論文題目 山崎闇斎の神儒「妙契」論

氏 名 孫 傳 玲

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、山崎闇斎の神儒「妙契」論の内実を解明する試みである。具体的には、次の三つの問題を解明することを目的としている。

(1) 闇斎の思想形成の過程を跡付け、神儒両方面にわたる彼の思想内容を考察することによって、その思想構造の大枠を明かにすること、

(2) 闇斎における神儒「妙契」論の具体的展開を解明すること、

(3) 「妙契」論は闇斎の政治思想にどう反映しているのかを明かにすること、である。

山崎闇斎は、儒教（朱子学）の理論を「中臣祓」「神代巻」とされる神道經典の解釈に援用して、神道の理論化、体系化を図ることに努めた。その一方、彼は日本の神道（神の道）と儒教（聖賢の道）の、それぞれの自立性を主張して、両者の関係を「妙に契合する」ものとして捉えている。彼によれば、宇宙共通の普遍原理としての「理」は、儒教そのものではなく、中国なら儒教（聖賢の道）に、日本なら神道（神の道）に体现される。神道と儒教とは同じ原理を表しながら、それぞれ両立するものである。このような神道と儒教との関係を、彼は「妙契」という言葉を使って論じた。

では、「妙契」とはどういう意味なのか、またこの「妙契」論は、闇斎思想の中にどう位置づけられるべきか、を論述するのが、本論文である。

本論文の構成は、序論に続いて、第Ⅰ部を3章に、第Ⅱ部を2章に、第Ⅲ部を1章に分けて論述し、これに結論を附している。

序論は3節から成る。第1節では、闇斎における「妙契」という言葉の意味を、これまでの研究を踏まえながら論述し、本研究の目的を明かにする。第2節では、

闇齋思想に関するこれまでの研究を整理し、本研究の位置づけを述べる。第3節では、本論の構成を述べる。

第I部「山崎闇齋の朱子学と神道」は、3章から成り、闇齋の学問思想の枠組みを解明することを目的としている。第1章では、山崎闇齋の生涯とその思想形成の具体的な過程（仏教→朱子学→神儒兼学）を論述している。第2章では、闇齋朱子学の基本的な三つの側面を考察することによって、彼の朱子学思想を明かにする。その三つとは、世界の構成原理（宇宙論）、人間としてあるべきすがた（人間論）、そして、人間としてやるべきこと（修養論）である。第3章では、神道の側面から、神道研究に関わる彼の研究活動、及びまた彼によって創立された垂加神道の中心思想について論じる。

第II部「山崎闇齋の神儒『妙契』論」では、闇齋の神儒「妙契」論の具体的展開を解明する。闇齋思想の鍵概念となる「神」と「中」という二つの概念を取り上げ、それぞれの概念に対する闇齋の理解・解釈を検討する。またこれによって、闇齋の構築した神道論と朱子学の関係を明かにする。まず第4章では、闇齋にとって神とは何であるかという問題を、朱子学の理気論との関連で論じる。これに加えて、彼の神道論の基本的構造を明かにする。そして、第5章では、「中」概念を検討する。闇齋が神道に発見した「中」を、朱子学にみえる「未発の中」、「君子時中」などの「中」と対照しながら、朱子学概念としての「中」から神道概念としての「中」へという闇齋における「中」論の展開を明かにする。

第III部「『妙契』論的政治思想」は、山崎闇齋の政治思想を、彼の「妙契」論の立場から捉えることを企図している。彼の「妙契」論的考え方は、彼の政治思想にも反映されている。これを、国内政治的次元の朝暮関係論と国際政治的次元における「自-他認識」（殊に対中国）の二側面から、論述するのが第6章である。

以上のように、この「妙契」論的考え方こそ、闇齋学問思想の特徴をなすものであり、彼の思想の全般を貫く根底的、基層的なものである。結論では、以上の論述をまとめ、本論文の主旨を明かにしている。